

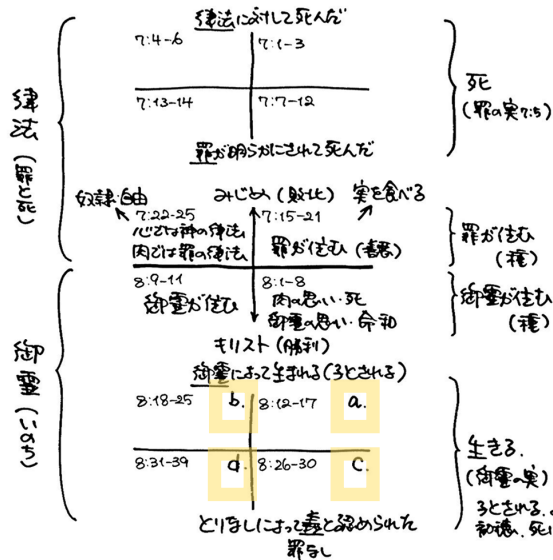


## ローマ人への手紙の構造

## 7章～8章

ローマ 7:1-8: 神の愛 = いのちの御霊 vs 罪と死の律法

2015.3.17



ヨハネ 12:23-26

人の子が栄光を受ける時が来た。  
一粒の麦の死 → 豊かな実。  
自分のいのちを惜む → 永遠のいのち。  
[十字架の死 → いのちの御霊]

8:12-39

- a. b - 子とされる。
- a. c. - 御霊によって
- c. d. - 御霊のとりなし、キリストのとりなし
- b. d. - 贖われる望み、神とともに解放、自由、愛。

7:1-6 律法から解放

↔ 8:26-39 愛は働かす。

7:7-14 罪が生きて、死んだ。

↔ 8:12-25 御霊によって生かされた

ローマ人への手紙7章から8章を分析しています。

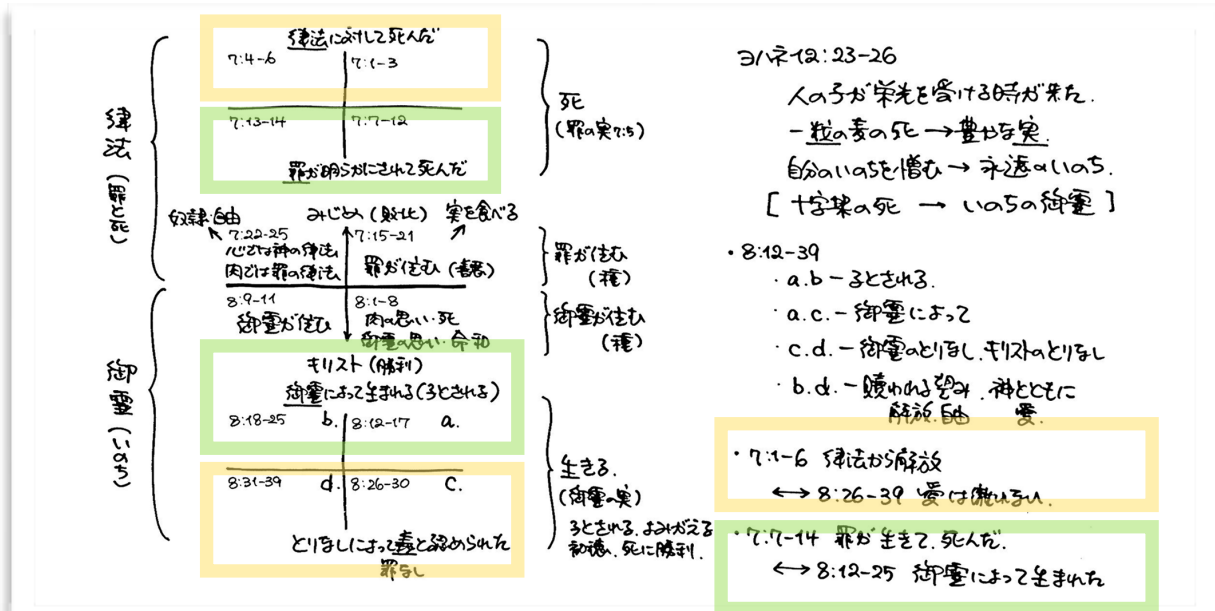
8章12節～39節がひとつのまとまりです。いのちの御霊の教えのところですから。そこにabcdと段落をつけました。8:12～17がa、8:18～25がb、8:26～30がc、8:31～39がdです。

ここの平行を見て、aとb前半のところは、子とされること。子としてくださる御霊を受ける。子なので贖われることを待ち望んでいる。それは被造物もということ言っているところから。

aとcは、御霊によってということが強調されています。

cとd後半は、御霊のとりなしとキリストのとりなし。とりなしと言われているところがここに書かれています。

次がbとd。aとcは御霊によってということでしたけれども、それに対してbとdは、贖われる望み、解放される、自由になるということに対して、dは、神様は絶対に見放しませんということ。愛・義の奴隷になったということ、神様は必ず共にいますということが平行しているところだろうということです。



7章の1節から14節までの罪と死の律法のところとも平行を考えています。

aとb、8:12～8:25までのところは、御霊によって生まれる、子どもとされるということでした。7章の最初の後半7:7～14は、罪が生きて死にました。御霊によって生まれることと罪によって死ぬということが、御霊が住んでいることに対して生まれる、罪が住んでいることに対して死ぬというのが平行しているところです。

7:1～6は律法に対して死にました。8:26～39は、愛は離れないということを言っていますので、律法から解放される。律法に対して死んで解放されることと義の奴隷とされる、愛はキリストの愛から離されることはないということが平行しているのではないかということで、まだ分析中です。